

# 大学生のテレビ番組への信頼度および懐疑的な態度とメディア・リテラシーの関係

—ドキュメンタリー番組を中心に—

村井 明日香 (1, 2, 3, 4, 5章), 浅井 亜紀子 (2, 3章)  
宇治橋 祐之 (1, 2, 3, 4, 5章), 齋藤 玲 (1, 2, 3, 4, 5章)  
堀田 龍也 (1, 2, 3, 4, 5章)

キーワード：テレビ・ドキュメンタリー、メディア・リテラシー、大学生、  
テレビ番組への信頼度、懐疑的な態度

## 第1章 はじめに

マスメディアに対する不信は根強い(林 [2017], 稲増 [2016])。Googleで“マスゴミ”(“マスコミ”と“ゴミ”を掛け合わせた言葉)と検索すると、400万件以上がヒットする(2020年10月18日現在)。マスメディア不信は、気に入らないマスメディアを非難、攻撃したり、それとの関わりを拒絶、ボイコットしたりする動きであり、これらの動きによって民主主義が揺らぐとの指摘もある(林 [2017] 14-15頁)。

日本では、80年代から90年代にかけて生じたマスメディアの不祥事をきっかけにメディア・リテラシー教育への関心が高まり、マスメディアに関わる人々、研究者、教育関係者の中で研究や実践が蓄積されてきた(中橋 [2014] 71頁, 山内 [2003] 37頁)。メディア・リテラシー教育が目指すのは、メディアを批判、否定するだけでなく、メディア社会を健全なものにしたいと願い参画する人を育てることである(堀田 [2004] 4頁, 水越 [2002] 96頁)。しかし、「教育実践が中途半端なものの場合、教えられる側は、自分たちがこれまでいかにマスメディアにだまされていたのかにただ驚くだけで、否定的、悲観的な認識ばかりが強まることになりがちだ」との指摘もある(水越 [2002] 104頁)。マスメディア不信が指摘される現在、メディア・リテラシー教育のあり方を改めて考える意義は大きい。

マスメディア不信の規定因について、稲増 [2016] は、マスメディアへの接触頻度や、インターネット上の意見との接触頻度、政治関心等を挙げている。また、政治関心との関係から、その関心の高さゆえに情報を「鵜呑みにしない」という健全な不信と、政治からの離脱を招く不健全な不信があるとしている。そのうえで、健全な不信をメディア・リテラシーであるとしている。しかしここでは、メディア・リテラシーの構成要素、およびそ

の教育との関係については検討されていない。

また、小城 [2014] は、テレビに対する態度として、テレビへの信頼性を疑う「テレビへの懐疑」があるとした。この態度の規定因として、「探求心」、「客観性」、「証拠の重視」、「認知的欲求」を挙げている。しかし、稲増 [2016] と同様に、ここでも、メディア・リテラシーの構成要素、およびその教育との関係については検討されていない。

昨今、テレビ局自身による番組のインターネット配信が本格的に始動し、インターネットで情報収集を行う人々もテレビ番組を視聴する機会が増えていると考えられる。そのため、テレビ番組のリテラシーを検討する意義は大きいと考えられる。

テレビで放送されるドキュメンタリー番組（以下、テレビ・ドキュメンタリー）に関しては、これまで番組制作者と視聴者の意識や態度の違いが指摘されており（例えば、佐藤 [1994]）、それがテレビ番組に対する不信や懐疑的な態度と関係している可能性がある。また、テレビ・ドキュメンタリーは、メディア・リテラシー教育で題材とされることが多いジャンルである（例えば、カナダ・オンタリオ州教育省編 [1992] 60-61頁、崔 [2008]、岩崎 [2008]、松野 [2002]、村井・堀田 [2016]、杉岡 [2000]）。

以上のことから、本研究では、メディア・リテラシー教育のあり方に対する示唆を得ることを目的として、大学生のテレビ番組への信頼度およびテレビ番組への懐疑的な態度とテレビ・ドキュメンタリーに対するリテラシーの関係を検討する。なお本研究では「テレビ番組」を、放送局が制作または放送（配信）している映像を伴う番組とする。

## 第2章 研究方法

### 1. 調査の方法と対象

調査は2020年5月に都内大学の学生（教養系学部1, 2年生）を対象に行った。興味関心が特定の分野に絞られないことから教養系学部を選び、専門科目を履修する前の1, 2年生を対象に実施した。授業内容に「メディア」を含まない3つの授業で調査依頼をした。授業終了後、調査目的と倫理的配慮等の説明が行われたあとに、同意書に記入した学生が回答した。調査はインターネット調査（Questant）を用い、原則として匿名で回答させた。インターネット調査は匿名性が高く、本音を得やすいとの指摘もあるため（鈴木 [2016] 50頁）、成績への影響等を意識した回答を抑えられると考えた。調査を依頼した229名のうち93名から回答を得た（回答率は40.6%）。平均年齢は18.7歳（ $SD=0.80$ 、最小値18、最大値22）であった。回答数と全体の割合を学年と性別によりクロス集計した結果を表2-1に示す。

表2-1 回答者の属性

	男子		女子		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1年	15	16.1%	34	36.6%	49	52.7%
2年	16	17.2%	28	30.1%	44	47.3%
合計	31	33.3%	62	66.7%	93	100.0%

## 2. 調査項目

### (1) フェイス項目, テレビへの信頼度, テレビ番組への懐疑的な態度

調査項目を付録に示す。性別, 学年, 年齢, テレビ視聴時間, テレビ番組への信頼度, テレビ番組への懐疑的な態度 (5項目), 調査の回答を考えるときに参考にした情報源等を尋ねた (付録 F 1~9)。テレビ番組への懐疑的な態度の質問項目 (付録 F 8) は, 「テレビに対する態度尺度」 (小城 [2014]) の「テレビへの懐疑」の項目を, 事実・現実を素材とするテレビ番組に対応する言葉に置換し作成した。

### (2) テレビ・ドキュメンタリーに対するリテラシー

メディア・リテラシー教育が目指すのは, メディア社会を健全なものにしたいと願い参画する人を育てることである (堀田 [2004] 4頁, 水越 [2002] 96頁)。「メディア社会を健全なものにしたいと願い」は, 「意識や態度」に関わるものであり, この「意識や態度」によって, 「参画する」という行動が生まれると考えられる。以上の理由により, テレビ・ドキュメンタリーに対する「意識や態度」を調査することを前提に調査項目を選定した。

具体的な調査項目としては, メディア・リテラシーの構成要素における, 「リプレゼンテーション」に対する意識や態度とした。リプレゼンテーションは, メディア教育を統合する中心的概念であり (マスターマン: Masterman, L. [1989]), 「実社会の人びと, 場所, 出来事, 考え方などを, メディアを通して再構成し, 再提示すること。再提示された『現実』」 (鈴木 [2006] 253頁) と定義される。リプレゼンテーションは, テレビ番組への批判で散見される「フェイクニュース」「偏向報道」「情報隠蔽」などのキーワードと密接な関係があると考えられることから, 本調査の対象とした。

村井・堀田 (Murai, A. and Horita, T. [2020]) は, 番組制作者がドキュメンタリーの制作手法や考え方を記述した書籍の記述から, バッキンガム (Buckingham, D. [2002]) のメディア・リテラシー教育の基本概念におけるリプレゼンテーションに対応する要素を抽出した。彼らは, リプレゼンテーションと対応する項目として, 「現実の再構成」, 「取材対象者に対する意識」, 「番組制作者の存在の表現」, 「放送される理由」, 「放送されない理由」, 「公平・中立」に対するリテラシーがあることを明らかにした。これをもとに, 本研究ではドキュメンタリーに対する意識や態度を尋ねる7つの質問項目を作成した (付録 Q1~7)。

選択肢は, 「ニュース」, 「ニュース・ドキュメンタリー」, 「その他のドキュメンタリー」, 「情報番組」の4つの番組ジャンルとし, 各項目に当てはまると思う番組ジャンルを選択させた。各ジャンルの番組例の一部を表2-2に示す。回答者にもこの番組例を提示し, 質問に回答させた。なお, このようにジャンルごとに選択肢を設ける方法は, ファン (Huang, E. [1999]) のドキュメンタリー写真の加工に対する許容度の調査を参考にした。番組ジャンルの選択肢は, 貝谷 [2005] を参考にした。貝谷は事実・現実を素材にしてつくられる番組を「報道番組 (ニュース)」, 「ドキュメンタリー」, 「情報系番組」に分類し

ている。「ドキュメンタリー」については、NHK・民放番組倫理委員会が「放送番組の倫理の向上について」で「ニュース・ドキュメンタリー」と「フィーチャードキュメンタリー」に分けることを提言している（日本民間放送連盟 [1995] 90-91頁）。フィーチャードキュメンタリーとは、「人もの、旅もの、歴史、美術、自然・科学もの作品性や創造性を重視して作る映像構成」を指す。NHK放送文化研究所のドキュメンタリーに関する調査（朝日新聞社 [1994]）では、外国人番組制作者に対して、この分類に基づき「フィーチャードキュメンタリー」を「その他のドキュメンタリー」という言葉に変えて調査を行っている。これらを参考に、本調査では、テレビ・ドキュメンタリーを「ニュース・ドキュメンタリー」と「その他のドキュメンタリー」に分類した。そのうえで、これらドキュメンタリーの2つの番組ジャンルを「ニュース」と「情報番組」の2つの番組ジャンルと比較して回答してもらうことで、ドキュメンタリーというジャンルに対する意識や態度の特徴が明らかになると考えた。

表 2-2 選択肢の番組ジャンルと番組例

番組ジャンル	番組例
ニュース	「NHK ニュース7」(NHK, 毎日) 「報道ステーション」のストレートニュース部分 (テレビ朝日)
ニュース・ドキュメンタリー	「報道ステーション」の特集VTR部分 (テレビ朝日) 「報道特集」の特集VTR部分 (TBS テレビ) 「NNNドキュメント」(日本テレビ)
その他のドキュメンタリー	「プロフェッショナル 仕事の流儀」(NHK) 「ザ・ノンフィクション」(フジテレビ) 「情熱大陸」(TBS テレビ)
情報番組	「ガッテン!」(NHK) 「出沒!アド街ック天国」(テレビ東京)

### 第3章 結果

欠損がある回答は項目ごとに分析から除いた。表中に分析に用いた件数を示す。

#### 1. テレビ番組への信頼度と懐疑的な態度

##### (1) テレビ番組への信頼度

表 3-1 はテレビ番組への信頼度を尋ねた結果である。「信頼している」と「どちらかといえば信頼している」の割合の合計は、全体の8割を超えていた。「信頼していない」の回答はなかった。「信頼している」を4、「どちらかといえば信頼している」を3、「どちらかといえば信頼していない」を2、「信頼していない」を1と数値化し、平均値を算出した。性別と学年別でそれぞれt検定を行ったところ、それらの差は有意ではなかった。

##### (2) テレビ番組への懐疑的な態度

事実・現実を素材とするテレビ番組への懐疑的な態度の5項目 (A～E) について尋ね

た結果を表3-2に示す。5項目すべてにおいて、「そう思う」および「ややそう思う」という「疑い」を示す回答の合計が6割を超えた。なかでも「C. 伝えていないことがたくさんあるのではないかと疑っている」が最も多く、8割を超えた。

**(3) テレビ番組への信頼度と懐疑的な態度との関連**

テレビ番組への信頼度と懐疑的な態度との関連を検討するために、テレビ番組への信頼度と、懐疑的な態度の5項目(A～E)について相関分析を行った。信頼度は、「信頼している」を4、「どちらかといえば信頼している」を3、「どちらかといえば信頼していない」を2、「信頼していない」を1と数値化した。懐疑的な態度の5項目は、「そう思う」を4、「ややそう思う」を3、「あまりそう思わない」を2、「そう思わない」を1と数値化した。

**表3-1 テレビ番組への信頼度**

	4. 信頼している	3. どちらかといえば信頼している	2. どちらかといえば信頼していない	1. 信頼していない	<i>n</i>	$\bar{x}$	<i>SD</i>	<i>t</i>
全体	19.4%	65.6%	15.1%	0.0%	93	3.04	0.59	
性別 男子	4.3%	21.5%	7.5%	0.0%	31	2.90	.60	1.63
女子	15.1%	44.1%	7.5%	0.0%	62	3.11	.58	<i>n. s.</i>
学年 1年生	14.0%	29.0%	9.7%	0.0%	49	3.08	.67	0.68
別 2年生	5.4%	36.6%	5.4%	0.0%	44	3.00	.48	<i>n. s.</i>

**表3-2 テレビ番組への懐疑的な態度と信頼度との相関分析の結果**

懐疑的な態度	4. そう思う	3. ややそう思う	2. あまりそう思わない	1. そう思わない	<i>n</i>	$\bar{x}$	<i>SD</i>	<i>r</i>
A. 情報操作されているのではないかと疑っている	13.0%	50.0%	32.6%	4.3%	92	2.72	0.74	-.21*
B. 中立でないのではないかと疑っている	17.2%	43.0%	33.3%	6.5%	93	2.71	0.82	-.33**
C. 伝えていないことがたくさんあるのではないかと疑っている	29.0%	51.6%	18.3%	1.1%	93	3.09	0.71	-.06 <i>n. s.</i>
D. 「本当のことでないこと」も含まれているのではないかと疑っている	22.6%	51.6%	22.6%	3.2%	93	2.94	0.76	-.28**
E. やらせが多いのではないかと疑っている	14.1%	57.6%	23.9%	4.3%	92	2.82	0.72	-.04 <i>n. s.</i>
A～E 平均	19.6%	50.5%	25.9%	4.0%	91	2.85	0.57	-.24*

\**p*<.05, \*\**p*<.01, \*\*\**p*<.001

相関分析の結果を表3-2の最右欄に示す。懐疑的な態度の5項目の平均と、テレビ番組への信頼度とのあいだに負の相関がみられた。このことから、テレビ番組に対して懐疑的な態度を有していることと、テレビ番組を信頼していないこととは関連していることが示唆された。項目別では、懐疑的な態度のA, B, Dとテレビ番組への信頼度とのあいだには負の相関がみられたが、C, Eとテレビ番組への信頼度とのあいだは無相関であった。「情報操作」、「中立ではない」、「本当のことではない」という懐疑的な態度を有している

ことと、テレビに対して信頼度が低いこととは関連があり、「伝えていないこと」、「やらせ」という懐疑的な態度とテレビへの信頼度の高低には関連がないことが示唆された。

以上のことから、大学生は、テレビ番組に対する信頼度が高い(表3-1)一方で、懐疑的な態度も高いこと(表3-2)、また懐疑な態度に関する項目のうち、信頼度の高さに関連のある項目と関連のない項目があること(表3-2)が明らかとなった。

## 2. テレビ番組への信頼度とテレビ・ドキュメンタリーに対する意識や態度

テレビ番組への信頼度とテレビ・ドキュメンタリーに対する意識や態度との関係を検討するために、表3-1で示したテレビ番組への信頼度の高群と低群の間で、テレビ・ドキュメンタリーに対する意識や態度の調査の各項目(付録Q1～7)の回答結果を比較した。

テレビ番組に対する信頼度について、「4. 信頼している」「3. どちらかといえば信頼している」と回答した学生を信頼度高群、「2. どちらかといえば信頼していない」「1. 信頼していない」と回答した学生を信頼度低群とした。群間でドキュメンタリーに対するリテラシーの7つの質問(31項目)における回答結果の差を明らかにするために、各項目について選択有を1、選択無を0と数値化し、 $t$ 検定を行った。

テレビ番組への信頼度について群間で有意差のあった項目を表3-3に示す。本研究が対象とする「ドキュメンタリー」の2ジャンルの結果に網掛けをした。信頼度低群の数値が高い場合と、信頼度高群の数値が高い場合があるため、有意差がある場合、数値が高いほうにアンダーラインをつけた。信頼度低群は、「ニュース・ドキュメンタリー」で何かの題材を放送しない理由に「取材対象者への影響に対する配慮」が影響しているという意識の値が高く、番組が伝える現実は「再構成したもの」とする意識の値が高く、取材対象者にはたらきかけを行う撮影手法では、「取材対象者の都合で、いつもとは別の場所でいつも通りのことをやってもらう(別の場所)」の1項目で「認められるべきケースがある」という態度の値が低かった。そして信頼度低群は、「その他のドキュメンタリー」で何かの題材を放送しない理由に「世間の空気と逆行したメッセージ」であることが影響するという意識の値が高かった。

テレビ番組に対する信頼度の低さは、「ニュース・ドキュメンタリー」と「その他のドキュメンタリー」で関係している項目が異なっていた。「ニュース・ドキュメンタリー」に対する意識や態度と、テレビ番組の信頼度が関係している項目が多かった。

## 3. テレビ番組への懐疑的な態度とテレビ・ドキュメンタリーに対する意識や態度の関係

テレビ番組への懐疑的な態度とテレビ・ドキュメンタリーに対する意識や態度の関係を検討するために、表3-2で示したテレビ番組への懐疑的な態度の高群と低群との間で、テレビ・ドキュメンタリーに対する意識や態度の調査の各項目(付録Q1～7)の回答結果を比較した。懐疑的な態度の各項目の回答で、「4. そう思う」「3. ややそう思う」を懐疑態度高群、「2. あまりそう思わない」「1. そう思わない」を懐疑態度低群に群分けした。群

表 3-3 テレビ番組への信頼度との関係

項目	番組ジャンル	信頼度 高群	信頼度 低群	t p	項目	番組ジャンル	信頼度 高群	信頼度 低群	t p
【放送しない理由】 世間の空気と逆行したメッセージ	n	79	12		【伝える現実】 再構成したもの	n	76	13	
	ニュース	.38 (.49)	.25 (.45)	0.92 n. s.		ニュース	.17 (.38)	.31 (.48)	1.15 n. s.
	ニュース・ドキュメンタリー	.38 (.49)	.42 (.52)	0.24 n. s.		ニュース・ドキュメンタリー	.38 (.49)	.69 (.48)	2.12 *
	その他のドキュメンタリー	.39 (.49)	.75 (.45)	2.52 *		その他のドキュメンタリー	.45 (.50)	0.69 (.48)	1.69 n. s.
	情報番組	.29 (.46)	.25 (.45)	0.29 n. s.		情報番組	.40 (.49)	.31 (.48)	0.59 n. s.
【放送しない理由】 取材対象者への影響に対する配慮	n	79	12		【撮影手法に対する許容度】 別の場所	n	77	13	
	ニュース	.51 (.50)	.58 (.52)	0.49 n. s.		ニュース	.36 (.48)	.08 (.28)	3.03 **
	ニュース・ドキュメンタリー	.43 (.50)	.75 (.45)	2.25 *		ニュース・ドキュメンタリー	.39 (.49)	.08 (.28)	3.29 **
	その他のドキュメンタリー	.37 (.49)	.33 (.49)	0.22 n. s.		その他のドキュメンタリー	.36 (.48)	.31 (.48)	0.39 n. s.
	情報番組	.35 (.48)	.25 (.45)	0.70 n. s.		情報番組	.38 (.49)	.15 (.38)	1.89 n. s.
					該当なし	.30 (.46)	.54 (.52)	1.71 n. s.	

上は平均値，下は標準偏差。\* $p < .05$ ，\*\* $p < .01$ ，\*\*\* $p < .001$  (表 3-4, 3-5, 3-6, 3-7, 3-8 も同様)

間で、ドキュメンタリーに対する意識や態度 (付録 Q1 ~ 7) に差がある項目を明らかにするために、各項目で  $t$  検定を行った。以下、有意差のあった項目について記述する。

### (1) 懐疑的な態度 (A. 情報操作) との関係

表 3-4 は、情報操作されているのではないかという懐疑的な態度 (以下、懐疑的な態度 (A. 情報操作)) に関する群間比較の結果である。懐疑的な態度 (A. 情報操作) では、ドキュメンタリーに対する意識や態度の多くの項目で群間差がみられた。「その他のドキュメンタリー」よりも、「ニュース・ドキュメンタリー」に対する意識や態度と関係している項目が多かった。懐疑的な態度 (A. 情報操作) の高群は、「ニュース・ドキュメンタリー」においては、題材選択で「視聴者にとって新しい」、「映像で表現しやすい」、「制作費に見合う」が考慮されているという意識の値が高く、何かの題材を放送しない理由に、「世間の空気とは逆行したメッセージ」が影響しているという意識の値が高かった。番組が伝える現実は「再構成したもの」であり、制作者の存在を視聴者に「わからないように工夫するべきだ」という態度の値が高かった。取材対象者にはたらきかけを行う撮影手法に関しては、「別の角度からも撮影するために、同じことをもう一度やってもらう (別の角度)」、「作業が早すぎて、見ていてわからないので、少しゆっくりやってもらう (ゆっくり)」、「普段起こりうるが、撮影の時には起こらなかった自然現象を人工的に再現する (例えば、桜が散るのを撮りたいが風が吹かなかったので木を揺する) (自然現象)」の3項目で、「許容されるべきケースがある」という態度の値が高かった。「その他のドキュメンタリー」においては、何かの題材を放送しない理由に、「取材対象者に対する配

慮」が影響するという意識の値が低かった。取材対象者にはたらしかけを行う撮影手法に関しては、「作業が早すぎて、見ていてわからないので、少しゆっくりやってもらおう（ゆっくり）」ことが「許容されるべきケースがある」という態度の数値が高かった。

表 3-4 懐疑的な態度 (A. 情報操作) との関係

項目	番組ジャンル	懐疑態度 高群	懐疑態度 低群	t p
【題材選択】 視聴者にとって新しい	n	57	33	
	ニュース	.35 (.48)	.48 (.51)	1.25 n.s.
	ニュース・ドキュメンタリー	.44 (.50)	.21 (.42)	2.31 *
	その他のドキュメンタリー	.25 (.43)	.21 (.42)	0.36 n.s.
	情報番組	.40 (.49)	.61 (.50)	1.87 n.s.
【題材選択】 映像で表現しやすい	n	57	33	
	ニュース	.33 (.48)	.30 (.47)	0.29 n.s.
	ニュース・ドキュメンタリー	.67 (.48)	.42 (.50)	2.28 *
	その他のドキュメンタリー	.54 (.50)	.45 (.51)	0.81 n.s.
	情報番組	.30 (.46)	.39 (.50)	0.92 n.s.
【題材選択】 制作費に見合う	n	57	33	
	ニュース	.47 (.50)	.52 (.51)	0.38 n.s.
	ニュース・ドキュメンタリー	.39 (.49)	.15 (.36)	2.58 *
	その他のドキュメンタリー	.37 (.49)	.33 (.48)	0.33 n.s.
	情報番組	.42 (.50)	.39 (.50)	0.25 n.s.
【放送しない理由】 世間の空気と逆行したメッセージ	n	57	33	
	ニュース	.40 (.49)	.30 (.47)	0.96 n.s.
	ニュース・ドキュメンタリー	.47 (.50)	.24 (.44)	2.29 *
	その他のドキュメンタリー	.44 (.50)	.45 (.51)	0.15 n.s.
	情報番組	.30 (.46)	.27 (.45)	0.26 n.s.
【放送しない理由】 取材対象者への影響に対する配慮	n	57	33	
	ニュース	.53 (.50)	.52 (.51)	0.10 n.s.
	ニュース・ドキュメンタリー	.51 (.50)	.42 (.50)	0.77 n.s.
	その他のドキュメンタリー	.28 (.45)	.52 (.51)	2.20 *
	情報番組	.32 (.47)	.36 (.49)	0.46 n.s.

  

項目	番組ジャンル	懐疑態度 高群	懐疑態度 低群	t p
【伝える現実】 再構成したもの	n	56	32	
	ニュース	.23 (.43)	.13 (.34)	1.30 n.s.
	ニュース・ドキュメンタリー	.52 (.50)	.28 (.46)	2.25 *
	その他のドキュメンタリー	.48 (.50)	0.47 (.51)	0.12 n.s.
	情報番組	.36 (.48)	.41 (.50)	0.45 n.s.
	該当なし	.14 (.35)	.28 (.46)	1.48 n.s.
	【制作者の存在】 わからないように工夫するべき	n	55	31
ニュース	.27 (.45)	.10 (.30)	2.17 *	
ニュース・ドキュメンタリー	.27 (.45)	.10 (.30)	2.17 *	
その他のドキュメンタリー	.31 (.47)	0.29 (.46)	0.18 n.s.	
情報番組	.18 (.39)	.19 (.40)	0.13 n.s.	
該当なし	.38 (.49)	.55 (.51)	1.50 n.s.	
【撮影手法の許容度】 別の角度	n	55	33	
	ニュース	.31 (.47)	.27 (.45)	0.36 n.s.
	ニュース・ドキュメンタリー	.47 (.50)	.15 (.36)	3.46 **
	その他のドキュメンタリー	.40 (.49)	.36 (.49)	0.34 n.s.
	情報番組	.31 (.47)	.24 (.44)	0.67 n.s.
	該当なし	.22 (.42)	.33 (.48)	1.15 n.s.
【撮影手法の許容度】 ゆっくり	n	54	34	
	ニュース	.39 (.49)	.29 (.46)	0.90 n.s.
	ニュース・ドキュメンタリー	.50 (.50)	.21 (.41)	2.99 **
	その他のドキュメンタリー	.41 (.50)	0.21 (.41)	2.07 *
	情報番組	.30 (.46)	.38 (.49)	0.83 n.s.
	該当なし	.20 (.41)	.38 (.49)	1.77 n.s.
【撮影手法の許容度】 自然現象	n	55	34	
	ニュース	.13 (.34)	.09 (.29)	0.56 n.s.
	ニュース・ドキュメンタリー	.33 (.47)	.15 (.36)	2.03 *
	その他のドキュメンタリー	.40 (.49)	.26 (.45)	1.33 n.s.
	情報番組	.16 (.37)	.09 (.29)	1.07 n.s.
	該当なし	.35 (.48)	.56 (.50)	2.00 *



(2) 懐疑的な態度 (B. 中立でない) との関係

表3-5は、中立でないのではないかという懐疑的な態度（以下、懐疑的な態度 (B. 中立でない)）に関する群間比較の結果である。懐疑的な態度 (B. 中立でない) の高群は、「ニュース・ドキュメンタリー」において、題材選択で「映像で表現しやすい」ことが考慮されており、番組が伝える現実は「再構成したものだ」という意識の値が高かった。「その他のドキュメンタリー」においては、有意差が見られた項目はなかった。

(3) 懐疑的な態度 (C. 伝えていない) との関係

表3-6は、伝えていないことがたくさんあるのではないかという懐疑的な態度（以下、懐疑的な態度 (C. 伝えていない)）に関する群間比較の結果である。懐疑的な態度 (C. 伝えていない) の高群は、「ニュース・ドキュメンタリー」と「その他のドキュメンタリー」の両方で、制作者の存在を視聴者に「わかるようにするべき」という態度の値が高かった。「その他のドキュメンタリー」で何かの題材を放送しない理由で「世間の空気と逆行したメッセージ」が影響しているという意識の値が低かった。

(4) 懐疑的な態度 (D. 本当のことでない) との関係

表3-7は、本当のことでないことも含まれているという懐疑的な態度（以下、懐疑的な態度 (D. 本当のことでない)）に関する群間比較の結果である。懐疑的な態度 (D. 本当のことでない) の高群は、「ニュース・ドキュメンタリー」の題材選択で、「映像で表現しやすい」、「物語性や人間ドラマ」が考慮されているという意識の値が高く、何かの題材を

表3-5 懐疑的な態度 (B. 中立でない) との関係

項目	番組ジャンル	懐疑態度 高群	懐疑態度 低群	t p
【題材選択】 映像で表現 しやすい	n	54	37	
	ニュース	.33 (.48)	.30 (.46)	0.36 n.s.
	ニュース・ ドキュメンタリー	.70 (.46)	.38 (.49)	3.22 **
	その他の ドキュメンタリー	.50 (.50)	.51 (.51)	0.13 n.s.
	情報番組	.33 (.48)	.35 (.48)	0.18 n.s.
	該当なし	.13 (.34)	.29 (.46)	1.73 n.s.

表3-6 懐疑的な態度 (C. 伝えていない) との関係

項目	番組ジャンル	懐疑態度 高群	懐疑態度 低群	t p
【放送しな い理由】 世間の空気 と逆行した メッセージ	n	74	17	
	ニュース	.36 (.48)	.35 (.49)	0.09 n.s.
	ニュース・ ドキュメンタリー	.39 (.49)	.35 (.49)	0.30 n.s.
	その他の ドキュメンタリー	.38 (.49)	.71 (.47)	2.51 *
	情報番組	.30 (.46)	.24 (.44)	0.51 n.s.
	該当なし	.14 (.35)	.56 (.51)	3.30 **

表3-5 懐疑的な態度 (B. 中立でない) との関係

項目	番組ジャンル	懐疑態度 高群	懐疑態度 低群	t p
【伝える 現実】 再構成 したもの	n	54	35	
	ニュース	.26 (.44)	.09 (.28)	2.25 *
	ニュース・ ドキュメンタリー	.56 (.50)	.23 (.43)	3.30 **
	その他の ドキュメンタリー	.50 (.50)	.46 (.51)	0.39 n.s.
	情報番組	.43 (.50)	.31 (.47)	1.07 n.s.
	該当なし	.13 (.34)	.29 (.46)	1.73 n.s.

表3-6 懐疑的な態度 (C. 伝えていない) との関係

項目	番組ジャンル	懐疑態度 高群	懐疑態度 低群	t p
【制作者の 存在】 わかるよう にするべき	n	73	18	
	ニュース	.52 (.50)	.44 (.51)	0.57 n.s.
	ニュース・ ドキュメンタリー	.62 (.49)	.06 (.24)	7.03 ***
	その他の ドキュメンタリー	.44 (.50)	.06 (.24)	4.75 ***
	情報番組	.37 (.49)	.17 (.38)	1.90 n.s.
	該当なし	.14 (.35)	.56 (.51)	3.30 **

放送しない理由に「世間の空気と逆行したメッセージ」が影響しているという意識の値が高かった。番組が伝える現実「再構成したもの」であり、公平・中立については「1つの番組内で公平・中立に伝えることを目指すべきだ」という態度の値が高かった。取材対象者に対する制作者のあり方は、「はたらきかけで現実や真実が伝えられる」という態度が低く、はたらきかけを行う具体的な撮影手法については、「取材対象者の都合で、いつもとは別の場所でいつも通りのことをやってもらう（別の場所）」の1項目で「認められるべきケースがある」と考える態度の値が高かった。「その他のドキュメンタリー」に関しては、「1つの番組内で公平・中立に伝えることを目指すべきだ」という意識の1項目の値が高かった。懐疑的な態度（D. 本当のことでない）は、「その他のドキュメンタリー」よりも「ニュース・ドキュメンタリー」に対する意識や態度と関係がある項目が多かった。

表 3-7 懐疑的な態度 (D. 本当のことでない) との関係

項目	番組ジャンル	懐疑態度 高群	懐疑態度 低群	t p
【題材選択】 映像で表現しやすい	n	68	23	
	ニュース	.35 (.48)	.22 (.42)	1.28 n. s.
	ニュース・ドキュメンタリー	.65 (.48)	.35 (.49)	2.57 *
	その他のドキュメンタリー	.50 (.50)	.52 (.51)	0.18 n. s.
	情報番組	.35 (.48)	.30 (.47)	0.42 n. s.
【題材選択】 物語性や人間ドラマ	n	68	23	
	ニュース	.04 (.21)	.00 (.00)	1.76 n. s.
	ニュース・ドキュメンタリー	.53 (.50)	.26 (.45)	2.40 *
	その他のドキュメンタリー	.75 (.44)	.87 (.34)	1.34 n. s.
	情報番組	.10 (.31)	.13 (.34)	0.36 n. s.
【放送しない理由】 世間の空気と逆行したメッセージ	n	68	23	
	ニュース	.38 (.49)	.30 (.47)	0.67 n. s.
	ニュース・ドキュメンタリー	.44 (.50)	.22 (.42)	2.10 *
	その他のドキュメンタリー	.46 (.50)	.39 (.50)	0.53 n. s.
	情報番組	.34 (.48)	.13 (.34)	2.25 *
【伝える現実】 再構成したもの	n	68	21	
	ニュース	.21 (.41)	.14 (.36)	0.64 n. s.
	ニュース・ドキュメンタリー	.49 (.50)	.24 (.44)	2.19 *
	その他のドキュメンタリー	.47 (.50)	0.52 (.51)	0.42 n. s.
	情報番組	.37 (.49)	.43 (.51)	0.50 n. s.
	該当なし	.15 (.36)	.33 (.48)	1.64 n. s.
【取材対象者に対する制作者のあり方】 はたらきかけで現実や真実が伝えられる	n	68	22	
	ニュース	.43 (.50)	.45 (.51)	0.23 n. s.
	ニュース・ドキュメンタリー	.35 (.48)	.64 (.49)	2.39 *
	その他のドキュメンタリー	.34 (.48)	.50 (.51)	1.36 n. s.
	情報番組	.38 (.49)	.41 (.50)	0.22 n. s.
	該当なし	.22 (.42)	.23 (.43)	0.07 n. s.
	n	65	22	
	ニュース	.69 (.47)	.68 (.48)	0.09 n. s.
	ニュース・ドキュメンタリー	.42 (.50)	.18 (.39)	2.24 *
	その他のドキュメンタリー	.23 (.42)	.05 (.21)	2.66 *
【公平・中立】 1つの番組内で公平・中立を目指すべきだ	情報番組	.38 (.49)	.36 (.49)	0.17 n. s.
	該当なし	.09 (.29)	.18 (.39)	0.98 n. s.
	n	68	22	
	ニュース	.26 (.44)	.50 (.51)	1.93 n. s.
【撮影手法の許容度】 別の場所	ニュース・ドキュメンタリー	.40 (.49)	.18 (.39)	2.09 *
	その他のドキュメンタリー	.40 (.49)	0.23 (.43)	1.55 n. s.
	情報番組	.34 (.48)	.36 (.49)	0.22 n. s.
	該当なし	.31 (.47)	.41 (.50)	0.86 n. s.

(5) 懐疑的な態度 (E. やらせが多い) との関係

表3-8は、やらせが多いのではないかという懐疑的な態度（以下、懐疑的な態度 (E. やらせが多い)）に関する群間比較の結果である。懐疑的な態度 (E. やらせが多い) の高群は、「ニュース・ドキュメンタリー」の題材選択で、「物語性や人間ドラマ」が考慮されているという意識の値が高く、「その他のドキュメンタリー」では値は低かった。すなわち、「ニュース・ドキュメンタリー」で物語性や人間ドラマが考慮されているという意識は、「やらせが多い」という懐疑的な態度の値の高さと関係しているが、「その他のドキュメンタリー」では、「やらせが多い」という懐疑的な態度の値と関係していなかった。「物語や人間ドラマ」は、ドキュメンタリーにおける番組ジャンルによって、受け止め方が異なることがわかった。

また、懐疑的な態度 (E. やらせが多い) の高群は、「ニュース・ドキュメンタリー」における題材選択で「制作費に見合う」が考慮されているという意識の値が高かった。取材対象者にはたらきかけを行う撮影手法に関しては、「その他のドキュメンタリー」で「撮影スケジュールの都合で、撮影日時に合わせていつも通りのことをやってもらう（撮影日時）」が「認められるべきケースがある」という態度の値が高かった。取材対象者にはたらきかけを行う撮影手法は、容認する態度が高い項目がある一方で、それを「やらせ」と捉えているといえる。

表3-8 懐疑的な態度 (E. やらせが多い) との関係

項目	番組ジャンル	懐疑態度 高群	懐疑態度 低群	t p
【題材選 択】 物語性や 人間ドラマ	n	65	25	
	ニュース	.05 (.21)	.00 (.00)	1.76 n. s.
	ニュース・ ドキュメンタリー	.54 (.50)	.28 (.46)	2.33 *
	その他の ドキュメンタリー	.74 (.44)	.92 (.28)	2.33 *
	情報番組	.14 (.35)	.04 (.20)	1.67 n. s.
	【題材選 択】 制作費に 見合う	n	65	25
ニュース		.48 (.50)	.52 (.51)	0.36 n. s.
ニュース・ ドキュメンタリー		.37 (.49)	.16 (.37)	2.18 *
その他の ドキュメンタリー		.35 (.48)	.36 (.49)	0.05 n. s.
情報番組		.43 (.50)	.36 (.49)	0.61 n. s.
【撮影手法 の許容度】 撮影日時		n	65	25
	ニュース	.32 (.47)	.44 (.51)	1.03 n. s.
	ニュース・ ドキュメンタリー	.45 (.50)	.32 (.48)	1.11 n. s.
	その他の ドキュメンタリー	.55 (.50)	0.28 (.46)	2.47 *
	情報番組	.34 (.48)	.28 (.46)	0.53 n. s.
	該当なし	.15 (.36)	.28 (.46)	1.24 n. s.

## 第4章 考察

表4-1は、ここまで述べてきた、テレビへの信頼度・懐疑的な態度と関係するドキュメンタリーに対する意識や態度の項目数をまとめたものである。

ドキュメンタリーの番組ジャンル別にみると、回答した大学生は、ドキュメンタリーの2つの番組ジャンルに対して、意識や態度が異なることがわかった。「その他のドキュメンタリー」よりも、「ニュース・ドキュメンタリー」に対する意識や態度と、テレビ番組の信頼度や懐疑的な態度が関係していることがわかった。

また、「ニュース・ドキュメンタリー」に対する意識や態度は、テレビ番組に対する懐疑的な態度（A. 情報操作、D. 本当のことでない）と関係がある項目が多かった。懐疑的な態度（A. 情報操作）は、「ニュース・ドキュメンタリー」における題材選択、放送しない理由、番組が伝える現実（再構成）、制作者の存在の見せ方、取材対象者にはたらきかけを行う撮影手法の許容度など、様々な項目と関係があった。これらの様々な項目を大学生は「情報操作」と関係づけて認識していることが示唆された。関係する項目のなかでも、取材対象者にはたらきかけを行う撮影手法の許容度については、関係する項目が3項目あり、いずれも、懐疑的な態度（A. 情報操作）が高いほど、撮影手法に対する許容度が高かった。このことから、撮影手法を認められるべきとしながらも、それを情報操作と関係づけて認識していることが示唆された。懐疑的な態度（D. 本当のことでない）は、「ニュース・ドキュメンタリー」の題材選択、放送しない理由、番組が伝える現実（再構成）、取材対象者に対する制作者のあり方、公平・中立、取材対象者にはたらきかけを行う撮影手法の許容度など、様々な項目と関係があった。これらの様々な項目を大学生は「本当のことでない」と認識していることが示唆された。

表4-1 テレビへの信頼度・懐疑的な態度と関係するドキュメンタリーに対する意識や態度の項目数

番組ジャンル	信頼度	懐疑的な態度				
		A. 情報操作	B. 中立でない	C. 伝えていない	D. 本当のことでない	E. やらせが多い
ニュース・ドキュメンタリー	3	9	2	1	7	2
その他のドキュメンタリー	1	2	0	2	1	2

「やらせ」と関係づけて捉えていると考えられる項目は、「やらせ」の辞典による定義とは異なるものも含まれていた。「やらせ」は、情報学辞典では「テレビ番組の制作過程において、制作者と取材対象者による事前打ち合わせや、制作者による指示などをもとに収録されたにもかかわらず、被写体による自発的な行為や自然な動きとして番組を進行・放送すること」と定義されている（音 [2002] 944頁）。この定義に基づけば、本調査項目における「取材対象者に対するはたらきかけ」（付録 Q5B, Q7）が「やらせ」と密接な関わりがある。しかし調査結果では、懐疑的な態度（E. やらせが多い）と関係していたの

は、「その他のドキュメンタリー」において「取材対象者に対するはたらきかけを行う撮影手法」の8項目のうち1項目と、題材選択における「物語性や人間ドラマ」の2項目のみであった。「ニュース・ドキュメンタリー」では、題材選択における「物語性や人間ドラマ」、「制作費に見合う」という「やらせ」の定義とは対応しない2項目が、懐疑的な態度(E. やらせが多い)と関係していた。このことから、「やらせ」という言葉は必ずしも辞典による定義で捉えられていないことが示唆された。

前述のとおり、メディア・リテラシー教育が目指すのは、メディアを批判、否定するだけでなく、メディア社会を健全なものにしたいと願い参画する人を育てることである(堀田[2004]4頁、水越[2002]96頁)。しかし、「教育実践が中途半端なものの場合、否定的、悲観的な認識ばかりが強まることになりがちだ」との指摘もある(水越[2002]104頁)。番組が伝える現実はあるのままの現実ではなく、再構成したものだという概念(付録Q3)は、メディア・リテラシーの基本概念(Masterman[1989])と対応するものである。この概念を意識している学生群は、テレビ番組への信頼度が低く、懐疑的な態度(A. 情報操作, B. 中立でない, D. 本当のことでない)が高かった。すなわち、番組が伝える現実はあるのままの現実ではなく、再構成したものだというメディア・リテラシーの基本的概念に対する理解が、テレビ番組への信頼度の低さや懐疑的な態度の高さに結びついている可能性が示唆された。このことから、この基本概念に対する教育は慎重に行う必要があることが示唆された。また、「ニュース・ドキュメンタリー」に対する意識や態度が、テレビ番組に対する信頼度や懐疑的な態度とより関係していることから、メディア・リテラシー教育では、「その他のドキュメンタリー」よりも「ニュース・ドキュメンタリー」を扱うことで、信頼度や懐疑的な態度に影響を与える可能性があることが示唆された。懐疑的な態度(A. 情報操作)および懐疑的な態度(D. 本当のことでない)は、「ニュース・ドキュメンタリー」の多くの項目と関係していた。本研究で関係性がみられた項目についてメディア・リテラシー教育で扱うことで、懐疑的な態度(A. 情報操作)および懐疑的な態度(D. 本当のことでない)に影響を与える可能性があると考えられる。

## 第5章 まとめ

### 1. 結論

本研究では、メディア・リテラシー教育のあり方に対する示唆を得ることを目的として、大学生のテレビ番組への信頼度およびテレビ番組への懐疑的な態度とテレビ・ドキュメンタリーに対するリテラシーの関係を検討した。

その結果、1) 大学生はテレビ番組への信頼度が高い一方で、懐疑的な態度も高いこと、2) 番組は再構成されたものだという意識の高さが、テレビ番組への信頼度の低さや懐疑的な態度と関係すること、3) 題材選択、放送しない理由、番組が伝える現実(再構成)、番組制作者の存在の見せ方、取材対象者にはたらきかけを行う撮影手法の許容度などの

様々な項目が、「情報操作」や「本当のことではない」という懐疑的な態度と関係することなどが示された。

## 2. 本研究の限界と今後の課題

最後に、本研究の限界と今後の課題を3点示す。本研究の調査対象者は、興味関心がある特定の分野に絞られない教養系学部を選び、授業内容に「メディア」を含まない授業で実施をするなど工夫はしたが、過度な一般化は避けなければならないと考えている。また、本調査は、依頼をした授業の受講生のうち、調査内容に理解を示してくれた学生のみが回答したものである。そのため、回答した大学生は調査内容に対して意識の高い学生である可能性が高い。そして、本調査は、新型コロナウイルスの流行下の2020年5月に実施されている。そのため、回答者は、新型コロナウイルス流行前に比べて自宅にいる時間が長く、テレビ番組から情報を得る機会が増えていたことも想像される。そのような状況が、テレビ番組への信頼度や懐疑的な態度の値に反映された可能性がある。

### <文献>

- 朝日新聞社 [1994] 「テレビドキュメンタリーを考える4－演出の範囲 制作者はどう考える」『朝日新聞』1994年9月14日、東京朝刊33面、朝日新聞社。
- 崔銀姫 [2008] 「表象の生産と消費におけるステレオタイプの構造的な問題にかかわる実践研究－ドキュメンタリーリテラシープログラム開発プロジェクトの事例から」『社会学部論集46』。
- カナダ・オンタリオ州教育省編、FCT (市民のテレビの会) 訳 [1992] 『メディア・リテラシー－マスメディアを読み解く』リベルタ出版。
- 林香里 [2017] 『メディア不信－何が問われているのか』岩波書店 (岩波新書)。
- 堀田龍也 [2004] 『メディアとのつきあい方学習』ジャストシステム。
- 岩崎千晶 [2008] 「4章 ドキュメンタリー映像」久保田賢一編著『映像メディアのつくり方』北大路書房。
- 稲増一憲 [2016] 「メディア・世論調査への不信の多面性－社会調査データの分析から」『放送メディア研究13』。
- 貝谷雅治 [2005] 「第10章 ドキュメンタリー」小野善邦編『放送を学ぶ人のために』世界思想社。
- 小城英子 [2014] 「テレビに対する態度－尺度の作成とオーディエンスの類型化」『聖心女子大学論叢123』。
- 松野良一 [2002] 『総合的な学習の時間のための映像制作マニュアル』田研出版。
- 水越伸 [2002] 『デジタル・メディア社会』岩波書店。
- 村井明日香、堀田龍也 [2016] 「テレビ番組の『やらせ』に関するリテラシーを養う討論型授業の実践」『日本教育メディア学会研究会論集40』。
- 中橋雄 [2014] 『メディア・リテラシー論－ソーシャルメディア時代のメディア教育』北樹出版。
- 日本民間放送連盟 [1995] 『放送倫理ブックレット No. 2 表現手法－いわゆる“やらせ”をめぐる』。
- 音好弘 [2002] 「やらせ」北川高嗣、須藤修、西垣通、浜田純一、吉見俊哉、米本昌平編 [2002] 『情報学辞典』弘文堂。
- 佐藤孝之 [1994] 「作る側と視聴者とにズレ 佐藤孝之 (コラム・私の見方)」『朝日新聞』1994年9月28日、東京朝刊4面、朝日新聞社。

- 杉岡道夫 [2000] 「ドキュメンタリーを解説する」 藤川大祐編著『メディアリテラシー教育の実践事例集－情報学習の新展開』学事出版。
- 鈴木淳子 [2016] 『質問紙デザインの技法<第2版>』ナカニシヤ出版。
- 鈴木みどり [2006] 「訳者あとがき」バッキンガム, D. 著, 鈴木みどり監訳『メディア・リテラシー教育－学びと現代文化』世界思想社。
- 山内祐平 [2003] 『デジタル社会のリテラシー「学びのコミュニティ」をデザインする』岩波書店。
- Buckingham, D. [2002] *Media Education – Literacy, Learning and Contemporary Culture, Polity.* (鈴木みどり監訳 [2006] 『メディア・リテラシー教育－学びと現代文化』世界思想社)。
- Huang, E. [1999] *Readers' Perception of Digital Alteration and Truth -Value in Documentary Photographs, Doctoral Thesis, School of Journalism, Indiana University.*
- MURAI, A., HORITA, T. [2020] *Investigation of Structures of Television Documentary Representation Based on Qualitative Analysis of Descriptions by Program Directors, International Conference for Media in Education ICoME2020.*
- <ウェブサイト>
- Masterman, L. [1989] *Media Awareness Education—Eighteen Basic Principles.*
- <https://www.medialit.org/reading-room/media-awareness-education-eighteen-basic-principles> (2020年10月28日現在)

## 付録 (調査項目)

F1.	性別, F2. 学年, F3. 年齢	
F4.	1日あたりのテレビ番組視聴時間	
F5.	1日あたりの映像コンテンツ視聴時間	A. インターネット上のテレビ番組以外の無料動画
		B. インターネット上のテレビ番組以外の有料の動画
		C. DVDやブルーレイ
F6.	メディアの重要度	A. テレビ番組
		B. インターネットから得られる情報
F7.	テレビ番組への信頼度	
F8.	事実・現実を素材とするテレビ番組への懐疑的な態度	A. 情報操作されているのではないかと疑っている
		B. 中立でないのではないかと疑っている
		C. 伝えていないことがたくさんあるのではないかと疑っている
		D. 「本当のことでないこと」も含まれているのではないかと疑っている
		E. やらせが多いのではないかと疑っている
F9.	調査の回答を考えたときに参考にした情報源	
Q1.	番組制作者が題材を選ぶときに考慮されていると思う項目	A. 世間に対する影響力
		B. 多くの人の関心
		C. 視聴者が見て面白い
		D. 視聴者にとって新しい
		E. 映像で表現しやすい
		F. 物語性や人間ドラマ
		G. 制作費に見合う
Q2.	番組が何かの題材を放送しない理由に影響していると思う項目	A. 視聴率がとれない
		B. 世間の空気と逆行したメッセージ
		C. 取材対象者の取材・撮影拒否
		D. 取材対象者への影響に対する配慮
		E. 視聴者から抗議が来る可能性
		F. スポンサーに対する配慮
		G. 制作者が取材したいと思わない
Q3.	番組が伝える現実	A. ありのままの現実を伝えるものだ B. 制作者が感じた世界を再構成したものだ
Q4.	制作者の存在の見せ方	A. 制作者の存在を視聴者にわかるようにするべきだ
		B. 制作者の存在を視聴者にわからないように工夫するべきだ
Q5.	取材対象者に対する制作者のあり方	A. 取材対象者がカメラを意識しない表情をできるだけ撮影するべきだ
		B. 取材対象者へのはたらきかけで現実や真実が伝えられることがある
Q6.	公平・中立についての考え方	A. 1つの番組内で公平・中立に伝えることを目指すべきだ
		B. 局全体で公平・中立に伝えることを目指すべきだ
		C. 公平・中立に伝えることは難しい
Q7.	取材対象者へのはたらきかけを行う撮影手法の容認度	A. 別の角度からも撮影するために、同じことをもう一度やってもらう (別の角度)
		B. 撮影スケジュールの都合で、撮影日時に合わせていつも通りのことをやってもらう (撮影日時)
		C. 作業が早すぎて、見ていてわからないので、少しゆっくりやってもらう (ゆっくり)
		D. テーマを伝えるのに必要なシーンだが、うまく映像が撮れなかったため、もう一度やってもらう (もう一度)
		E. 取材対象者の都合で、いつもとは別の場所でいつも通りのことをやってもらう (別の場所)
		F. いつもとは違うが、その人を表現するのにふさわしい場所で、いつも通りのことをやってもらう (ふさわしい場所)
		G. 普段起こりうるが、撮影の時には起こらなかった自然現象を人工的に再現する (例えば、桜が散るのを撮りたいが風が吹かなかったので木を揺らす) (自然現象)
		H. 取材対象者の隠れた思いを引き出すために状況の設定をする (例えば、手紙を書いたり、誰かに会いに行くことを提案する) (状況設定)